

## モスクワ自転車展示会及び国内市場

### 1. モスクワ国際サイクリング展（MIGS）

モスクワ国際サイクリング展－MIGS（Moscow International Cycling Show）は単独開催ではなく、ボーリング、マリンスポーツ用具の展示会と合同開催の「MISS（Moscow International Sports Show）SPRING 2007」というスポーツ展示会の中のひとつで、14回目の開催である。

#### 【展示会概要】

主催： International Trade Exhibitions LLC Moscow

会場： SC Olympisky(モスクワ市中心街)

会期： 2007年2月28日(水)～3月3日(土)

開催時間： 28・1・2日 10:00～18:00、3日 10:00～16:00

展示面積： 10,000㎡、入場者数： 20,000人

出展者数： 140社（内訳；自転車87社、ボーリング25社、マリンスポーツ28社）



競技場正面（中央がMISS看板）



展示会入口（緑の看板）

本展示会は、今回から会場をモスクワ市郊外の見本市会場から、市内中心部のオリンピスキーというモスクワ・オリンピック時に作られた競技場に移して開催された。

自転車関連の出展者数は全体の60%程度であるが、展示面積は約70%を占めていた。会場内で展示されていた自転車の大半は、中国製のMTB類型車と子供車・幼児車であった。完成車メーカーの出展者数は累計36社※（内訳；ロシア17社、中国16社、イタリア2社、台湾1社）、自転車部品・アクセサリは累計37社※（内訳；ロシア13社、中国17社、ドイツ3社、台湾2社、オランダ及びイタリア各1社）であった。（※完成車と部品・アクセサリの両方出品している出展社はそれぞれにカウントされている）

経済成長中のロシアでは、付加価値の高い商品の購買層があると思われたが、この展示会

で欧米の有名ブランドの自転車はほとんど見られず、出品内容を見る限りでは廉価車が対象であった。日本企業関連ではシマノが現地代理店を通じ出展していた。



オープニングセレモニー (2/28 11:00~)



シマノブース



出品車種は MTB 類型車が多い

## 2. モスクワ市内専門小売店

モスクワ市内数箇所の自転車専門小売店の調査を行った。最初に訪れた店舗では、展示会で見たような MTB 類型車はなく、メリダ、ジャイアント、ウィラー及び KHS 等の MTB が価格帯 10,000~15,000 ルーブル (46,000~69,000 円: 1ルーブル=4.6 円として換算) で、トレック、ゲーリー・フィッシャー及びスペシャライズド等の MTB が価格帯 15,000~30,000 ルーブル (69,000~138,000 円) で販売されており、このような自転車小売専門店が 5 店舗ほど密集していた。

次に「エクストリーム」という様々なスポーツ店が集合した総合スポーツ用品店を訪ねた。同店は市内に 3 店舗、各種スポーツ用品店がテナントとして 100 以上も入居している。自転車関連は 4 階建の 1 階部分に集約しており、欧米の MTB、BMX を主に販売していた。なかでもスコットの自転車専門店では、MTB は 20,000~40,000 ルーブル (92,000~184,000 円) と一段と高い価格帯で、最も高価なフルサス MTB は 114,000 ルーブル (524,400 円) で販売されていた。また、シマノのディオーレや LX 等の変速機、ギヤクランクやハブ等の部品を販売している店もあった。ジャイアントのリバイブを 17,400 ルーブル (80,000 円) で置いている店もあり、更にある店舗ではサンタクルーズ、エルスワースのダウンヒル (DH) 用 MTB を展示してい



た。ロシアでも最近 MTB の DH を楽しむ人が増えており、付加価値の高い商品への需要が高まりつつあるようである。

唯一見かけた地元ブランド「STELS」の自転車は、車輪径 20 インチでミニサイクルのような車種が、3,000～3,800 ルーブル(13,800～17,480 円)で販売されていた。アップ型ハンドル、シートポストが 80cm 近くあり、店員の説明によると、小学生から身長 190cm の大人まで利用可能ということである。この自転車のフレーム、パーツは全て中国製で、組立てをモスクワ市郊外で行っている。この他には、現在ロシアでは作られていないということであった。



自転車小売店① (トレック、メリダ等)



トレックの MTB (15,000～20,000 ルーブル)



「STELS」自転車 (変速機付 3,800 ルーブル)



自転車小売店② (スペシャライズド等)

BMX 専門店も 2 店あり、ブランドもマンガース、ハロー等の本格的なものを並べ、ハンドル、タイヤ等のパーツやアクセサリも豊富に揃えていた。タイオガのステムやタンゲ精機のヘッドパーツも取り扱っていた。最近、欧米の流行に敏感な若者たちの間で BMX が流行しており、展示会でもコーナーが設けられ BMX の実演を行っていた。

また、他の専門小売店では、欧米有名メーカーの中級～高級品まで幅広い MTB・BMX、少数だがロードレーサー (トレック製 20,000 ルーブル:92,000 円) 等のスポーツ車が店頭で並べられ、アフターパーツも充実していた。通常、親が子供に買い与える自転車の購入価格は 3,000～5,000 ルーブル(13,800～23,000 円)程度であるが、十分に高価であり、頻繁に来客が

ある様子はなかったが、ロシアでも付加価値の高いものの需要が在ることは確認出来た。しかし、展示会で見たような低価格帯の MTB 類型車等を実際に販売している店舗は見られなかった。

### 3. 利用状況

経済自由化により成長著しいと言われるロシアだが、特にモスクワ市では光熱費、交通料金、家賃等も年々上昇しており、ごく一部の階層を除けば、一般市民の生活はむしろ苦しくなっていると感じている人の方が多い。

モスクワでは、冬は積雪のため言うまでもないが、一年を通じて通勤等で自転車はほとんど利用されていない。道路の舗装状況があまり良くなく、また自動車の走行マナーも良くないため、市内で通勤手段として自転車を利用する人は見かけない。更に週末、郊外や公園などでサイクリングを楽しむ等、レジャーでの利用もあまりなく、サイクリングコース等も殆ど整備されていない模様である。



雪のモスクワ市内。冬季の自転車走行は不可能である。



アディダスショップ。サイクル用品はないが、消費者の付加価値の高いものへの需要はある。

モスクワ市内中心部には地下鉄網が張り巡らされ、地下鉄の終着駅から更に郊外へはバスやトロリーバス網が細かく広がっており、これらの公共交通機関を使えば十分に通勤可能で、物価上昇が続くとはいえ運賃は依然として安い。また、市民の大半が暮らす市郊外のアパート群には至る所に 24 時間営業のスーパーがあり、買い物は歩いていける距離で済ますことが出来るので、主婦が買い物のために自転車を利用することもない。仮に駅までバス等を使わず自転車で通勤、駐輪すれば直ぐに盗難にあう可能性が高く、夜遅くには最寄りのバス停から自宅アパートまでのごくわずかの距離でも女性の一人歩きは注意を払う必要があり、自転車で郊外の自宅と職場を行き交うのは身の危険を伴うということである。

気候条件や道路の舗装状況だけでなく、治安や安全面といった他のヨーロッパ諸国との事情の違いからも自転車利用が促進されないのである。

(デュッセルドルフ事務所)